

忌みの事実を如何に捉え理解し、後世に伝えるか

一般社団法人 洗楓座
一般社団法人 e f c o . j p
代表理事 佐藤建吉

▼「花岡事件」の現地を訪ねて

2017年7月1日、2日に、秋田県大館市を訪ねた。それは、いわゆる「花岡事件」から72年目の記念行事とそのフィールドワークに参加し、花岡事件の背景を知ることが目的であった。

事件の概要としては、1945年7月1日の夜10時過ぎ、当時の鹿島組作業所で、中国から強制収用された中国人労働者(劳工)たちが、飢えと虐待に抗して一斉に蜂起し、日本人補導員4名と中国人1名を殺害し、逃走した。これを鎮圧するため、警察や旧軍などの2万人からなる鎮圧隊の手によって中国人劳工は包囲され、拷問を受け、死亡者は419名に達した。

筆者が参加した行事は、花岡事件の事実を解

明しよう、人生をかける。最近の話題では、中学生棋士の藤井聡太4段は、プロ棋士となつて以来、公式戦29連勝の新記録をつくった。彼の一手一手が歴史をつくったといえる。

花岡で21年継続して行っている恒例行事である。事件現場である大館市では、例年6月30日に、市長も参加して慰霊行事を行っている。が、事件の発生日は、6月30日ではなく7月1日であるなど、事実とは異なる対応や認識がある。

事件は終戦直前の労働力や物資不足の動乱期に起こり、終戦後はGHQによる占領となり、事件の責任解明のため二つの裁判が行われたが、十分な審理は行われていない。それゆえ現地においても、誤解を見出すことができる。

また、東京都議会議事録で、小池百合子知事が率いる都民ファーストの候補者の9割が当選し、安倍晋三総理の自民党が候補者の6割が落選するという結果は、政治上の歴史となった。日々の努力や、何気ない行為が歴史をつくり、また自信たっぷりの行為が、功成り成敗の歴史をつくる。これは論議も教える通りの事である。行為や出来事には、歓迎されるものもある。

▼抹消できない歴史

いまを生きる私たちの日常の出来事も歴史となる。

冒頭述べた「花岡事件」は、戦時下という状況が、この「友子制度」の地域の風習を消し、変質させた。1942年1月、戦時中の労働力不足を補うため法律を制定し、日本本土に中国人を強制的に収用連行、労働不足を補填した。しかも、抑留国の十代の少年も対象として約4万人の男性を日本国内に連行し、劣悪な環境や状況で労働を強いた。

▼「友子制度」の崩壊

上野動物園のパンダ夫婦には、自然交配で、メスの赤ちゃんパンダが誕生し元気に育ち、東京生まれのパンダの記録と歴史をつくっている。

また、東京都議会議事録で、小池百合子知事が率いる都民ファーストの候補者の9割が当選し、安倍晋三総理の自民党が候補者の6割が落選するという結果は、政治上の歴史となった。

日々の努力や、何気ない行為が歴史をつくり、また自信たっぷりの行為が、功成り成敗の歴史をつくる。これは論議も教える通りの事である。行為や出来事には、歓迎されるものもある。

▼抹消できない歴史

いまを生きる私たちの日常の出来事も歴史となる。

▼地域の忌みの出来事も重要な歴史

冒頭述べた「花岡事件」は、戦時下という状況が、この「友子制度」の地域の風習を消し、変質させた。1942年1月、戦時中の労働力不足を補うため法律を制定し、日本本土に中国人を強制的に収用連行、労働不足を補填した。しかも、抑留国の十代の少年も対象として約4万人の男性を日本国内に連行し、劣悪な環境や状況で労働を強いた。

中国人が連行された作業所は、全国に135カ所あったというが、「花岡事件」は、河川の流路の切替工事を下請けした鹿島組花岡出張所の中国人収容施設「中山寮」で起こった。重労働と虐待、しかも十分な食料が与られず飢えが加わる極悪非情な労働生活環境が、その背景であった。

事件後、工事現場近くの信正寺の篤谷達道師は「冤親平等」の精神から「華人死者追善供養塔」を設置し遺骨を祀っている。寺庭には、樹齢600年の銀杏があるが、すべての目撃者あり、歴史の証言者として残っている。

事件後、工事現場近くの信正寺の篤谷達道師は「冤親平等」の精神から「華人死者追善供養塔」を設置し遺骨を祀っている。寺庭には、樹齢600年の銀杏があるが、すべての目撃者あり、歴史の証言者として残っている。

▼「花岡事件」から学ぶこと

花岡事件を生んだ大館市から、資源リサイクル工場への転用が、時代の要請として進められている。

去を払拭するように、都好と世界の平和のために市鉱山からの資源リサイクル工場への転用が、時代の要請として進められている。

花岡事件を生んだ大館市から、資源リサイクル工場への転用が、時代の要請として進められている。その地には、中国人観光客もやってくる。未来に向けた日中友好の樹立もあってほしい。



花岡川ほとりで行われた灯明供養。花岡事件時に中国労働者を看した山病院の看護婦・内藤イトと性419の灯明(2017年7月1日夜)

連載